

2-(2) 歴史遺産の魅力アップへ—岐阜大仏と大仏殿の3Dスキンの成果

1 概要

「岐阜大仏」(岐阜県重要文化財)、「^{しょうぼうじ}正法寺大仏殿」(岐阜市重要文化財)の3Dスキンを、今後の修理と魅力アップを目的に実施。

大仏はもとより大仏殿を3Dスキンした事例は**全国初**。

閲覧ソフトウェアを利用することにより、大仏及び大仏殿等を**上下、左右様々な角度からみることができる**ほか、自由に断面を設定し、内外の位置関係を確認できる。

2 活用

このスキンデータによって、

- ① 大仏及び大仏殿の修理事業において、**MRIのように修理箇所を的確に把握し**、修理方法をパソコン上で**シミュレーション**することが可能。
- ② 境内から大仏殿内に入り**普段見られない角度から大仏を見学できる**ようなバーチャル・リアリティや動画の作成なども可能。
- ③ **3Dプリンタ**で、ミニチュアなど様々なサイズの**大仏や大仏殿が作成可能**。

今後、**3Dデータ**を利用した**動画等**を市のホームページや歴史博物館、メディアコスモス等で**公開**し、岐阜大仏、正法寺大仏殿の**魅力を多くの皆様にご覧いただき**、さらに、**文化財指定のランクアップ**を目指し、ぎふ文化の魅力PRをより一層推進していく。



▲ 3Dデータ 断面



▲ 3Dデータ 大仏殿

3 所感

新年度がスタートし、新しい体制がいよいよ動き始めた。

「岐阜大仏」以外にも、岐阜市には磨くべき魅力がたくさんあり、新しい部「**ぎふ魅力づくり推進部**」を中心に、

ぎふの歴史・文化の魅力づくりをより一層推進していく。

【京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系科長 清水 ^{しげあつ}重敦 教授 コメント】

(岐阜市長良川流域の文化的景観検討委員会委員)

木造の巨大建築を内外部とも3Dスキャンした例はほとんどない。文化財の保存と活用の上で非常に画期的で、先鞭^{せんぺん}をつけた。岐阜市の事例を先進として、参考にする事例が増えていくだろう。これを機に、岐阜の歴史・文化を多くの方に触れてもらえると幸いである。

参考

○事業概要

令和元年度文化的景観保護推進事業

目的 重要文化的景観「長良川中流域における岐阜の文化的」の重要な構成要素の一つである金鳳山正法寺^{きんぼうさんしょうぼうじ}について、今後の修理等整備のために必要な現状記録と活用のための測量調査

製作者 京都工芸繊維大学 清水重敦教授・研究室及び同大学 KYOTO Design Lab

測量地点 大仏殿内（仏像、仏像の空間）大仏殿外観、境内、正法寺周辺、149カ所

測量方法 レーザー3次元測量機を用い、最小1mmピッチの点群として360度測量

○撮影風景



▲足場からの撮影風景



▲高所作業車からの撮影